

下水道マネジメントのためのベンチマーキング手法に関する検討会 設置趣旨

- 我が国の下水道は、今後、厳しい財政状況下、人材不足の中で、未普及解消、防災・減災対策、施設の老朽化対策、健全な経営、低炭素・循環型社会への対応、国際展開など、多様化・複雑化する課題に対応するため、下水道インフラを適切にマネジメントし、効果的かつ効率的に下水道サービスを維持・向上させて行くことが必要。
- 適切なマネジメントをP D C Aサイクルの下で確実に実施していくためには、成果等を客観的・定量的に評価し、体系的な改善活動につなげていくベンチマーキング手法が有効なツールと考えられる。
- また、ベンチマーキング手法による客観的な評価と改善活動は、下水道界に必要な資金・人材・情報・ブランド等の資源を呼び込むことに寄与すると考えられる。
- 一方、イギリス、フランス、オーストラリアなどにおいては、国が中心となって定量的ベンチマーキングを行うことが制度化されており、今後、これら海外諸国の企業と国内外の水ビジネス市場で伍していく必要がある本邦下水道事業体や民間企業においては、客観的かつ国際的な尺度でパフォーマンスを評価されることが避けて通れないと想定される。
- さらに、我が国も審議に参加しているISO/TC224 では、近い将来、幹事国であるフランスがベンチマーキングの国際規格開発を提案することが確実視されており、我が国としてベンチマーキングに対する基本的考え方や戦略を定めていく必要がある。
- このような状況を踏まえ、本検討会は、ベンチマーキング手法について、主に（1）我が国の下水道界におけるマネジメントの改善・向上、（2）我が国の下水道事業体や海外ビジネス展開を図る民間企業の国際競争力向上、の観点から、その効果や必要性、方法論、規格化等について検討するために設置するものである。